

こおろぎ

発行日 2003年10月1日 No.127
発行元 株式会社
オリジン・コーポレーション
代表取締役：杉井保之
〒426-0044 静岡県藤枝市大東町777-1
TEL 054-636-4300 FAX 054-636-6187
E-mail origin@ck.tnc.ne.jp
URL <http://www.origin-co.com>

ジャムはどこに消えた？

あるところにライオンの王様がいました。

王様はジャムが大好きで、毎年、国中からジャムを集めてジャムの大会を開いていました。ジャムの大会で優勝するとたくさんの宝物がもらえます。町のジャム屋は大会に向け、競ってジャムを作るのでした。

さて今年もジャムの大会の日がやってきました。

大会の本命は、昨年の優勝者ウサギの「ボス」と、今年、新しく越してきたリスの「リーダー」のお店です。

大会が進むと大方の予想の通り、ボスとリーダーのお店が決勝に進出しました。

王様は、ネコの「グラッサー」に両方のお店の様子を見てくるよう命じました。



ここはボスのお店です。お店の中ではボス以外のウサギ達が汗だくになってジャムを作っています。ボスは真ん中に立って大声で怒鳴っています。

「俺の腕が良いから決勝戦まで来れたんだ。俺の言う通りやらなかったらクビだからな！ここでは俺が一番偉いんだ！」

ボスの店の店員がぼやいています。

「ボスは段取りがわかっているからいいだろうけど、俺たちには全体のことがさっぱりわからない。それにあんなに威張られるとやる気なんかなくなるよ。とにかく怒られないように仕事しよう。」

グラッサーはボスの店を出て、リーダーの店に向かいました。

リーダーの店では、皆が丸くなって話し合っています。

最後にリーダーが、「いよいよ決勝戦だ。私は食べた人が感動するような最高のジャムを作りたいのだが、とても私一人の力では作れない。ここにいる皆の心のこもったジャムにしたいので、是非、また力を貸してくれ。さあ私たちのジャムを作ろう！」

リーダーがそう言うとリスたちは立ち上がり一斉に仕事に取り掛かりました。

グラッサーは、一人のリスに「皆さんは、ジャムの作り方を知ってるの？」と尋ねました。

するとリスは、「知ってますよ。どこがポイントかちゃんと教えてもらっていますし、出来上がりも想像できます。それに、このジャムには私たち一人一人のアイデアも含まれているのですよ。」と嬉しそうに答えました。



グラッサーは、店を出るとノートを取り出して、こう書きました。

『ボスは権力に頼り、リーダーは協力を頼りにする。』

『ボスはどうするかを指示するが、リーダーはビジョンを示し、どうするかを考えさせる。』

『ボスは不満を生み、リーダーはやる気を生み出す。』

「ふむ、こうしてみるとボスとリーダーは全く逆だな。」そうつぶやくとグラッサーは、もう一度ボスの店に向かいました。

ボスの店に着くと、中からボスの怒鳴り声が聞こえてきました。

「何をやってるんだ！お前なんか首だ。出ていけ！」

転げるように店を追い出されたウサギに近づいて、何があったか尋ねると、

「ジャムを焦がしちゃったんだ。でも僕はボスの言うとおりにや

ったんだぜ。それでも焦がしたのは俺だからって、ボスは俺を首にしたんだ。」

ここまで話すとウサギは、店の横にあったゴミ箱を蹴飛ばして街の中に消えていきました。

グラッサーは、何も喋らずボスの店を後にしました。

リーダーの店に着くと、リーダーの店でも誰かがジャムを焦がしたようです。

リーダーは、ジャムを焦がしたリスのところへ行って何やら話しています。

「何が悪かったんだろうね？量に問題があったかも知れないね。でもこの仕事は君に仕上げてもらいたいんだ。君のかき混ぜ方は誰より優しくて丁寧だからね。是非、もう一度頑張ってくれ！」

リーダーは、リスの肩をポンとたたいて自分の仕事場に戻っていきました。

グラッサーはうなずき、ノートを取り出してこう書きました。

『ボスは人を責め、リーダーは問題点を正す。』

『ボスは荒みを生み出し、リーダーは信じ合う関係を作り出す。』

グラッサーはパタンとノートを閉じて、またボスの店に向かいました。

ボスの店ではジャムが出来上がったところのようです。ちょうどボスが試食をするところでした。

店員のウサギたちは、もし駄目だったらボスに怒られてしまうと思って、ビクビクしながらボスの動きを見ています。

ボスがジャムを一口食べました。そして皆をにらみながら「よし！」と一言言いました。そして出来上がったジャムをビンに詰めると、皆に向かって言いました。

「今年も俺のジャムが優勝だ！」



リーダーの店でもジャムが出来上がったようです。

店員のリスたちはワクワクしながらリーダーの試食の結果を待っています。

リーダーが一口ジャムを食べると、リーダーの顔は見る見る笑顔になり、皆に向かって

「こんなに素敵なジャムを僕は今まで食べたことがないよ！皆の思いが詰まっていて、このジャムが皆の頑張りを僕に教えてくれているよ。本当にありがとう。きっと僕たちのジャムを気に入ってもらえるよ！」

リーダーの言葉を聴いて、リスたちは互いに顔を見合わせ、喜びを全身で表現しました。

その光景を眺めながら、グラッサーはノートにこう書きました。

『ボスは「俺の」と言い、リーダーは、「僕たちの」と言う。』

この物語は、ここでおしまいです。

今回、このお話を載せたのは、気がつく職場や家庭で私がボスになっている時があるからです。

ところで、この大会で勝ったのはどちらだと思いますか？

そうした勝敗に関係なく、すでに宝物を手に入れている人がいる気がします。何が勝利か、何が宝物かは、皆さんお一人、お一人が決めていただくことでしょう。

私は人を大切に、やる気を引き出すリーダーになりたいです。